



3年ぶりの開催となった「潮音寺山まつり」

潮音寺山まつりが6月19日(日)に3年ぶりに開催されました。会場となった浅江小では、おまつりを楽しんでいる小学生と保護者とともに、一所懸命に運営等のサポートをしている浅江中学生(有志)の笑顔がとても印象に残りました。そしてなにより、久しぶりの開催を喜ぶ地域の方のうれしそうな表情がとても印象的な1日でした。



潮音寺山まつりのために浅江小グラウンドに集った浅江地区の園児からお年寄りまでの全員が、本校吹奏楽部が演奏する国歌に耳を傾けながら、国旗が掲揚される様に注目するという僅か数十秒の行為が終わった瞬間でした。会場中から自然と拍手が湧き上がりました。とても温かい拍手でした。胸が熱くなりました。この拍手は、何なのでしょう。「3年ぶりの潮音寺山まつりがいよいよ始まるんだ」という気持ちの高まり?みんなが国旗に注目するという行為を通して、地域みんなが一体感を共有できた事に対する感謝の念?久しぶりの吹奏楽部の生演奏に対する賞賛等、後から考えればいろいろと意味づけが考えられるのですが、多分言葉にならない様々な感情の発露がこの拍手だったのだと思います。あまりに自然に湧き上がった拍手だったので、多分ほとんどの人は拍手をしたことすら無自覚だったのでしょうか。現に、まつりの中で、地域の方に、「あのときの拍手がよかったですね」と話しかけても、「?」という反応でした。何十年も潮音寺山まつりに関わり続けてきた地域の方と、初めてまつりに参加したわたしとでは、見える景色が違ったのかもしれませんが、わたしはこの自然な拍手に胸を打たれました。

その他にもまつりを通して、印象的な場面がたくさんありました。吹奏楽部の生徒が一曲目を演奏し終わった後に見せた満面の笑み…小さな子どもが飽きないように常に客席を意識しながら演じた情報デザイン部…受付の検温にはじまり、園児や児童の目線で竹とんぼやわなげ、カローリングなどの競技をサポートし、完全にスタッフの一員として役割を果たしたボランティアの生徒…学校では学ぶことのできない多くの学びがこのまつりには間違いなくありました。

それと同時に、幅広い年齢層が一堂に会する場を生み出すことができる、浅江地域のエネルギーと、このまつりは今後もリニューアルされながらずっと続いていくのだという「若々しさ」のようなものを感じました。そのような場に、運営を支える当事者として参画できる本校の生徒はなんて幸せなのだろうと思います。このような場を提供していただいた、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

地域とともにある浅江中学校 校長 吉岡智昭

おやじの会が当日の様子をダイジェストでまとめた動画を製作されたので、本校HPにアップ(右QRコード参照)しています。この度、おまつりへの参加が叶わなかった方はぜひご覧ください。まつりの雰囲気を感じていただけることと思います。

